

森のモリくん



皆さんに協力していただきたいこと



©やなせたかし

草を刈り払ってください

シカは臆病な動物ですので、自分の体を見られることを極端に嫌がります。現在、森林と田畑の境界や耕作放棄地などで草が生い茂っているため、シカが行動しやすい環境になっています。刈り払いを行った場合、シカが集落に近づきにくくなることが研究機関の調査で明らかになっています。シカ被害を防ぐためにも刈り払いをお願いします。



果樹や野菜のクズを田畑や森林に捨てないでください

主に草を食べていたシカが人間の作った栄養価の高い食べ物を食べることで、栄養状態が良くなり、出産時期が早まって頭数が増加していくというサイクルが確立されています。

シカの被害を防ぐために、収穫して余った果樹や野菜のくずを田畑や森林に捨てないでください。このゴミがシカを集落に引き寄せ最大の要因となっています。人間にとってはゴミであっても、シカにとってはごちそうです。シカの目に届かないように処分することが重要です。



補助金を
ご活用ください

さんれい さんちゃん
©やなせたかし

表1 被害防護柵設置補助

施設の種類の	補助対象経費 および補助率	補助対象者
新規電気柵 新規ネット柵 新規トタン柵 新規有刺鉄線柵 新規鉄線柵 猿落くん その他の新規柵	柵用資材購入費の 1/2以内 (限度額5万円)	農林業者の方(面積要件はありません。)
	柵用資材購入費の 1/2以内 (限度額10万円)	3戸以上連担し、1反以上の受益がある農林業者団体(中山間地域等直接支払制度の集落協定を含みます。)



◀写真②ユズを守る被害防護柵

ネット柵は高さが大事と言われていますが、シカは最初に下の隙間から入るかどうかを探ってくるため、いくら高くても隙間が1cmあれば、簡単に侵入を許してしまいます。ネット柵を設置される場合には、ネットの下部30cmくらいを地面にスカート状に垂らすこと、またはスカートネットやトタンをネットの下部に接続することをお勧めします。

特集 中山間の危機

シカ被害の実態と対策①

今月号と来月号では深刻なシカ被害の実態と、その対策についてお知らせします。

被害の現状

現在、香美市ではニホンジカ(以下「シカ」)による農林業被害が激増しています。平成19年度の被害面積は25ヘクタール、被害額は2542万円です。主な被害として、農業関係ではユズの木のはぎ取り(写真①)・水稲の踏み倒し・野菜への被害があり、林業関係では植林されている木の皮のはぎ取り・幼木への被害があります。ニホンジカは1ヶ所で食べるため、どの被害箇所においても壊滅的な被害となっています。

シカは平成5年頃から旧物部村を中心に増え始め、現在では4586頭が市内に生息しているものと推計されています。適正頭数(生息していてもあまり影響がない数)は1029頭ですからその約4倍のシカが市内に生息していることとなります。生息域は最近5年で急速に拡大し、土佐山田町の中心部を除く全域での生息が確認されています。

被害対策

このようなシカ被害の対策として、市では現在主に①有害鳥獣捕獲の実施、②被害防護柵設置の推進を進めています。

①有害鳥獣捕獲の実施

前述の適正頭数(1029頭)まで減らすことを目標として捕獲を行っています。市では、猟友会の協力を得るとともに、捕獲制度を拡充し、平成19年度には705頭

平成20年度には1563頭の捕獲を行いました。しかし、被害は減少に向かうことなく、むしろ増えているような状態です。

シカは狩猟の際に、周辺の市町村に逃げ込み、再び戻って来ていることも十分に考えられます。そこで、平成19年度から、周辺の市町村と連携した一斉捕獲への取り組みが始まりました。まだ十分な成果は得られていませんが、今後も続けていくことで頭数の削減につなげることが期待されています。

②被害防護柵設置の推進

市では有害鳥獣被害防止事業として、被害防護柵設置に係る資材費に半額の補助(限度額あり)を行っています(表1)。(写真②)が設置されました。しかし、柵を設置した箇所では被害の減少が確認されているものの、柵を張った区域の周辺で被害が拡大しているのが現状です。このような状態のため、市では集落単位での被害防護柵設置を推進しているところです。

また平成19年に隣の徳島県那賀町と共同で阿佐地域鳥獣害防止広域対策協議会を設立し、大規模な防護柵設置等、総合的な被害防止体系の確立に向けて事業を行っています。

次号では『三嶺周辺での被害状況と対策』『シカ肉に関する取り組み』をお知らせします。

【問い合わせ先】林政課 ☎58-3120